

Renewal!

エイズ・結核・マラリアのない
未来に向けて日本の力を



FGFJレポート

グローバルファンド日本委員会
Friends of the Global Fund, Japan
Joining the Fight Against AIDS, Tuberculosis and Malaria

Spring 2018
<http://fgfj.jcie.or.jp>

No.
15



UHCフォーラム2017
@東京から

世界の感染症、最大死因は結核。 誰もとり残さない保健システム構築を グースビー国連特使が訴える

12月12日、東京プリンスホテル(東京都港区)で開催された「UHCフォーラム2017」のサイドイベント『UHC達成の道筋としての結核対策—誰もとり残さない保健システムの実現に向けて』*で、国連結核特使のエリック・グースビー博士が基調講演を行いました。

結核は“炭鉱のカナリア”

博士は其中で、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)達成に向けて結核対策が果たす役割を指摘するとともに、「UHCが実現できれば結核の終息は可能になるが、その一方で結核の打撃を劇的に緩和しなければUHC達成も望めない」と、両者の相互補完関係を強調しました。

基調講演では、昨年11月モスクワで開かれた結核に関する閣僚級会合で、結核終息への努力がUHC実現にも大きく貢献するとの認識が共有されたことが紹介され、博士は「結核は“炭鉱の中のカナリア”だ。必要な手段と政治的な意思にもとづいて私たちが結核対策を実施すれば、世界はユニバーサルアクセスへの道をきりひらくことができる」と強調しました。炭鉱でカナリアがいち早く異変を察知するように、結核は保健システム全体に対し、いま何が必要で、どう対応すべきかを知らせる警告役を果たすからです。

非感染症も含めた保健システム強化を

また、結核は「保健システムのすべての機能を動員して対応しなければならない複雑な病気だ」としたうえで、「結

核対策の課題は結核治療だけでなく、心臓病や糖尿病などの非感染症も含めた保健医療の提供システムにとつての課題でもある」と、次のように語っています。

「非感染症の影響は富裕国だけでなく、低・中所得国にも及び、死者数は年間3600万人を超えている。その80%は低・中所得層。強靱な保健システムの確立には、感染症と非感染症の両方の治療が必要だ」

グースビー特使は米国のオバマ政権時代に大統領エイ



「賢明な意思決定を行い、効果的な道筋をたどれば、2つの目標はともに実現できる」と基調講演で語るエリック・グースビー特使

ズ救済緊急計画(PEPFAR)を統括する地球規模エイズ調整官を務めており、その経験からも強固な保健基盤が感染症対策の重要な柱であると指摘しました。検査・相談から治療、ケアに至る一連のサービスを一つの場所で受けられるようにすること、医療人材の育成に力を入れることなどを通し、保健システムを整えなければ、感染症の流行を抑えることはできないからです。結核は感染症による世界の年間死者数の6分の1を占めているため、とくにこの点が重要になります。

劇的な変化に向けて

治療可能な結核でも、複数の薬を6～9か月の間、服用し続けることが困難な人は多く、結核終息という目標は「劇的な変化がなければ実現しない」と博士は述べています。しかも、治療が困難な多剤耐性結核(MDR-TB)や超薬剤耐性結核(XDR-TB)が出現し、他のいかなる薬剤耐性病原体よりも多くの人の命を奪っているのです。

現実には厳しい。ただし、グースビー特使は「いまがまさに結核を打ち負かすための新たな一歩を踏み出そうとしている時期でもある」と語り、結核診断・治療でイノベーションを加速化させること、低所得国の慢性的な医療従事者不足を解消するタスクシフティング(任務移譲)や研修の拡充、各国が増やしてきている自国財源の結核対策資金をさらに増加させることの3つが急務であると強調しました。

グースビー特使は最後に「UHCの実現も、結核終息も一夜にして実現するものではない」と語り、困難は認めつつも「賢明な意思決定を行い、効果的な道筋をたどれば、二つの目標はともに実現できると私は信じている」と講演を締めくくりました。(宮)

※共催:公益財団法人日本国際交流センター/グローバルファンド日本委員会、世界保健機関(WHO)、グローバルファンド、厚生労働省、ストップ結核パートナーシップ、公益財団法人結核予防会



基調講演に続き、「UHCと結核流行の終息に向けた政治的コミットメント」「結核終息とUHCの戦略的連携」の2つのパネルディスカッションが行われました。パネルの詳細は<https://goo.gl/JjueJ5>



ここを深掘り! 「結核」

国連総会ハイレベル会合で結核がテーマに

日本大使も共同議長に

結核流行の終息を目指し、国連総会結核ハイレベル会合が今年9月26日、ニューヨークで開かれます。会合では世界の結核対策の指針となる政治宣言が採択される見通しで、国連総会のミロスラフ・ライチャーク議長(スロバキア共和国外務・欧州問題大臣)は1月11日、日本の別所浩郎国連大使とカリブ海の島国、アンティグア・バーブーダのウォルソン・アルフォンソ・ウェブソン大使を、共同議長(co-facilitator)に指名しました。

ハイレベル会合は国連総会が招集し、国家元首を含む国連加盟193か国の指導者らが地球規模の重要課題について集中的な討議を行う会議です。関係分野の国連機関や国際機関のトップ、民間財団、市民社会組織の代表らもそれぞれの立場から参加し、発言の機会を得ています。

保健分野ではこれまでにHIV/エイズ(2001年)、非感染

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)

すべての人がお金に困ることなく、必要な保健医療サービスを受けられるようになること。持続可能な開発目標(SDGs)のゴール3のターゲットの一つでもあり、SDGsが重視する「誰ひとり取り残さない」という原則を具現化する重要な手段となっている。

性疾患(2011年)、エボラ(2014年)、薬剤耐性(2015年)をテーマにしてハイレベル会合が開かれ、その成果として各国が課題解決に向けた認識を共有し、対応を強化してきました。

モスクワ宣言の先へ

保健分野5番目のテーマとなる結核は毎年、最も多くの人命を奪っている感染症であり、ハイレベル会合では持続可能な開発目標(SDGs)の枠組みのもとでの結核流行終結に向けた方策が議論されます。

世界保健機関(WHO)によると、結核は世界の10大死亡原因の一つで、2016年には年間1040万人が発症し、170万人が亡くなっています。死者のうち40万人はHIVにも感

染しており、結核はHIV陽性者の最大の死亡原因でもあります。

WHOとロシア政府は昨年11月、モスクワで結核に関する閣僚級会合を開催し、114の参加国が「モスクワ宣言」を採択しました。宣言では「十分かつ持続可能な資金調達」「結核の診断・治療・予防のための研究開発の強化」「薬剤耐性結核への対応」「多分野にまたがる責任体制」などを約束しています。

結核ハイレベル会合の準備プロセスでは、このモスクワ宣言を議論の土台としつつ、関係者協議や5月の世界保健総会を経て、優先課題と対応がさらに検討されることになります。(宮)

新刊紹介 | グローバルファンドの貢献を検証

『グローバルファンドとユニバーサル・ヘルス・カバレッジ』

エイズなど個別の疾病対策と保健システム強化の関係について、報告書『Leveraging Disease Funding to Advance Health for All—The Global Fund and Universal Health Coverage (感染症対策資金をテコにすべての人の健康を改善する:グローバルファンドとユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)』(スーザン・ハバード他著、日本国際交流センター刊)が発表されました。同書では、エチオピアとルワンダを取り上げ、三大感染症対策とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)推進という二つの目標を達成するために、グローバルファンドの資金をどう活用できるか、事例調査にもとづき分析しています。

両国では、グローバルファンドの支援がその国のUHC達成に貢献する道筋として、別表の5点が挙げられます。

「健康保険のカバー率の拡大」については、ルワンダの例を挙げ、グローバルファンドの資金がHIV陽性者や感染リスクが高い人びとに加え、感染の有無にかかわらず最貧困層の人びとの保険料の補助に充てられていることを紹介。「保健サービスの拡大」では、グローバルファンドの資金がクリニック建設や資機材購入、保健人材の育成と給料にも充当され、これらは三大感染症対策以外の妊婦健診や予防接種、母子保健、感染

UHC達成への道筋

健康保険のカバー率の拡大
保健サービスの拡大
保健省全体の能力強化
脆弱な立場に置かれた人びとの保健サービス利用の促進
各国政府の保健医療予算の増加

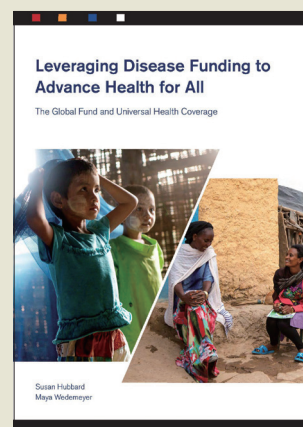
症以外の治療にも幅広く活用されています。

また、グローバルファンドの支援を受ける国の保健省職員が三大感染症対策の立案、管理、モニタリングといった任務を通して自らの能力を高め、さらに保健省内で昇進してより広範な保健プログラムに責任をもつようになるため「保健省全体の能力強化」がはかられた例を紹介しています。

セックスワーカー、男性同性愛者、薬物使用者など「脆弱な立場に置かれた人びとの保健サービス利用の促進」については、報告書は「近くに保健センターがあり無料でサービスが提供されていても、すべての人が利用するとは限らない」と指摘しています。受診時の差別をなくすよう配慮した保健医療施設の運営や保健人材の育成にグローバルファンドの資金が使われることで、社会的に弱い立場の人たち—多くはクリニックに行かなかった—が安心して保健サービスを受ける習慣が付き、慢性疾患などの受診にもつながります。

さらに、グローバルファンドは支援対象国に対し、国内の保健医療予算の最低額を設定し、国際援助からの自立を促す移行準備への協力と支援を行うことで、自力でUHCを達成し、維持していこうとする国々を支えています。

COLUMN





日本人とグローバルファンド vol.1

このお金を無駄にすまい、人の命を救いたい。 心はみな一致していました

元グローバルファンド技術審査委員 井戸田一朗氏（しらかば診療所院長）

東

京・新宿にある診療所の院長として、性的少数者へのHIV診療や精神科診療など特徴ある医療を提供する井戸田一朗医師は、一面、結核対策の専門家として国際保健にも深く関わってきた。2010年から昨年3月まで、グローバルファンドの技術審査委員を6年半務めている。

「2003年にWHOの一員としてフィジーに赴任。南太平洋での結核対策でグローバルファンドに通じていた経歴が買われ、外務省さんに声をかけられ、委員公募に応じました。グローバルファンドに日本が多額の拠出をしながら、その配分に日本人が責任を持たないのはおかしいという意識がありました」

世界中から寄せられる申請書の審査は、公平性、利害相反などに厳しい注意が払われる。欧州へ出向いての10日間の審査会合は、ハードの一語に尽きる。

「事前知識もない国の、英文で150ページもある申請書を何冊も渡されます。状況、課題、これまでの対策や成果、現状と分析、それをどう改善させたいか。3年単位の申請プロジェクトを医療技術面はもとより、予算や政策面からも検討。WHOや事務局提供の参考資料とも読み合わせないと、全体像は見えません」

ほぼ徹夜で申請書を読み、翌日は午前の小グループ討議、

午後の全体討議、修正済みレポートの再提出。そして夜、また読む、読む……。

「議論では、この国にお金を出して、本当に課題が解決できるのか？ いや、ここで見捨てたらこの国はどうなる？ 文字通り、侃々諤々^{かんかんかくかく}。エイズ対策はいいのに、並行する結核対策が不十分で、激論の末、落とした申請もあります。これでは無駄に終わることが見えるから。お金を無駄にはできない、人の命を救いたい、その点でみな心は一つでした」

会議を終えた夜の解放感はひとしおだ。激しく論争した同士がワインに酔い、騒ぎ、肩を組んだ仏・エビアンでの夜を、いまでも懐かしく振り返る。そうやって世界中に仲間のネットワークが広がった。

「2020年東京オリンピック・パラリンピックで来日する選手の向こうにどういう現実があるのか、想像力をもっただけなら嬉しいですね。審査委員ではなくなりましたがグローバルファンドについては折に触れて伝えてゆきたい。感染症って、一国だけの課題ではないですから」

（永）

●インタビューの全文は、<https://goo.gl/mBmVWL9>をぜひご覧ください。

FGFJトピックス

ピーター・サンズ氏 第4代事務局長に就任



グローバルファンドのピーター・サンズ新事務局長が、3月5日に就任しました。就任約1か月前の2月2日の来日では、外務省の中根一幸外務副大臣を表敬訪問し、約20分間、意見交換が行われました。（写真）

4月末には、サンズ氏の事務局長としての初来日が予定されています。

24日午後は、日本国際交流センター（JCIE）と国際エイズ学会が共催するシンポジウム「Ending AIDS by 2030」（エイズ流行の終息に向けて）に登壇します。プログラム詳細と参加のお申し込はこちらから。



FGFJとJCIE

グローバルファンド日本委員会（FGFJ）は、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）を支援する日本の民間イニシアティブです。グローバルファンドに対する理解の促進と、感染症分野における日本の国際貢献の強化のために各種会合や調査、情報発信を行なっています。

民間外交のパイオニアである（公財）日本国際交流センター（JCIE）のプログラムとして運営されています。



FGFJレポート

2018年4月1日 No.15

編集・発行：
公益財団法人 日本国際交流センター（JCIE）
〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目1番12号
明産溜池ビル7F

Tel: 03-6277-7811（代表）

Mail: fgfj@jcie.or.jp

http://fgfj.jcie.or.jp

編集協力：宮田一雄、永易至文、加納啓善

Copyright ©日本国際交流センター 無断転載禁止